

書誌第105号追

# 九州沿岸水路誌

追補第6

令和5年(2023)12月22日発行



海上保安庁

# 九州沿岸水路誌

## 追補第6

この追補は、令和3年3月刊行の九州沿岸水路誌の記載事項を更新するもので、令和5年11月17日までに入手した資料を基に編集したものです。

追補は、更新情報を記載した「本文」と、それを検索するため、ページ番号等を記載した「索引」から構成されています。

「索引」については、更新箇所の表題や港名等を記載し、ページ番号順に並べています。

「本文」については、本追補の更新箇所は、灰色背景で赤色文字にて示しています。

【】で囲んだ内容は、削除や差し替えを行うことを意味しています。

図の挿入等によりページ内に収まらない場合は、水路誌本誌とのページ番号を整合させるため、追補においては、便宜的に枝番号を付しています。

令和5年12月22日

海上保安庁海洋情報部

## 注 意

海上保安庁は、各国が発布した諸法規、宣言、海図及び水路通報・航行警報並びに船舶等からの視認報告のうち、船舶交通の安全の確保と海洋環境の保全という観点から、航海の安全及び環境保全に影響を与える可能性のある情報については、水路通報及び航行警報により周知するほか、海上保安庁の海図その他の航海用刊行物にも掲載するようにしています。

これらの情報を利用するにあたっては、海上保安庁によるこれらの情報提供は、航海の安全等のための利用を目的としており、その内容は日本政府がこれらの諸法規、宣言等を承認したことを意味するものではない点に留意してください。

ページ	更新箇所(表題、港名等)	備考
5	船舶気象通報 ・ 気象官署	
50	博多港	追補第3の当該ページは無効
56	唐津港	追補第1の当該ページは無効
66	伊万里湾	
71	対馬	
72	佐須奈港	
74	豆酸港	
75	巖原港	
76	三浦湾	
77	比田勝港	
78	比田勝港	追補第5の当該ページは無効
91	佐世保港	
92	佐世保港	追補第3の当該ページは無効
104	長崎港	
136	八代港	追補第5の当該ページは無効
180	油津港	
223	中城湾	

等)の安全を図るため、全国各地の主要な岬の灯台等航路標識132か所において、局地的な風向、風速、**波高、気圧**の気象・海象の観測を行い、その現況をテレホンサービス、ウェブページにより提供している。船舶気象通報を行う航路標識の名称、気象観測項目等は書誌第411号「灯台表第1巻」に記載してある。

5 **気象官署** この水路誌の記載区域に関係のある気象官署は次のとおりである。

管区气象台等 (電話)	地方气象台 (電話)	測候所 (電話)
福岡管区气象台 (092-725-3600) 福岡市中央区大濠 1-2-36	佐 賀 (0952-32-7027)	
	長 崎 (095-811-4861)	
	熊 本 (096-352-0345)	
	鹿 児 島 (099-250-9913)	名 瀬 (0997-52-0375)
	宮 崎 (0985-25-4031)	
沖縄气象台 (098-833-4290) 那覇市樋川 1-15-15	宮古島 (0980-72-3051)	
	石垣島 (0980-82-2159)	
	南大東島 (09802-2-2006)	

### 第3章 海 象

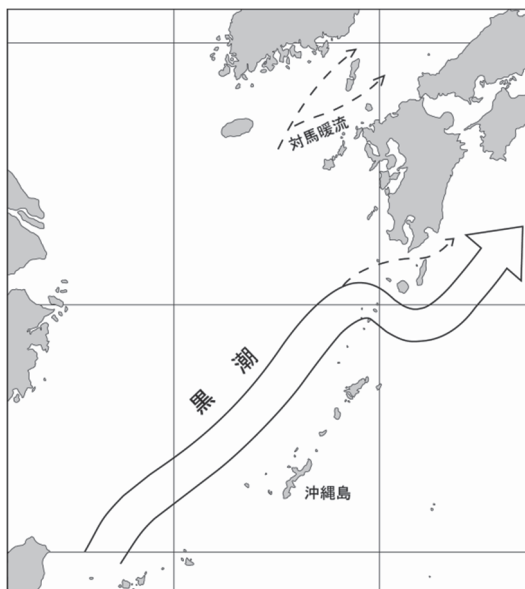
10

#### 海 流

南西諸島の北西側を北上し、吐噺海峡を経て九州南岸及び東岸沿岸を通過する黒潮がある。

15

第2図 海流概況図



**黒潮** 台湾東岸と与那国島の間から東シナ海に流入して南西諸島の北西側、陸棚斜面を北上し、屋久島と奄美大島の間で東方に、種子島南方で北東方に向きを変えて四国沖に向かって流れている。流速はおおむ

	第7・8号岸壁	33° 36.7' N 130° 23.8' E	360	3~5.5	2,000×4	
	第9~11号岸壁	33° 36.7' N 130° 24.1' E	390	6~7	5,000×3	
	第12号岸壁	33° 36.6' N 130° 24.2' E	161	5.5	3,500×1	
	博多ふ頭2号岸壁	33° 36.3' N 130° 23.9' E	105	5	2,000×1	
	博多ふ頭3号岸壁		147	6~7.5	5,000×1	定期船用
須崎ふ頭	1号岸壁	33° 36.4' N 130° 23.5' E	130	5~7.5	5,000×1	
	第2~4号岸壁		553	10~12	30,000×2	アンローダークレーン3基
	第5・6号岸壁	33° 36.3' N 130° 23.2' E	260	7	5,000×2	
	第7~10号岸壁		450	4~5.5	2,000×5	
	長浜1号岸壁	33° 36.0' N 130° 23.4' E	360	3~5.5	2,000×4	
	長浜2号岸壁	33° 35.9' N 130° 23.6' E	360	4~6	2,000×4	

上記表の他に、防波堤内には箱崎、東浜、長浜及び福岡の4船だまりがあり、小型船及び漁船の係船に利用されている。

**最大入港船舶** 2023年7月30日、客船MSCベリッシマ(171,598t、喫水8.7m)が中央ふ頭5号岸壁に着岸した。

**航泊制限** 引火性危険物積載タンカーの引火による事故を防止するため、一般船舶は港内に停泊中の同タンカー(タンク船も含む)から30m(LPG船は50m)以内の海域に立ち入ることが禁止されている。同タンカーは、港内停泊中「引火性危険物積載中」の垂れ幕等を掲げている。

### 通信

**港長** 船舶と港長との間で、「もじほあん」を介しVHF無線電話による港務通信ができる。

呼出名称	周波数 (呼出・応答/通信)	運用時間	連絡先	備考
もじほあん MOJI COAST GUARD RADIO	16/12ch	常時	福岡海上保安部	

**港湾管理者** 船舶と港湾管理者との間で、VHF無線電話による港務通信ができる。

呼出名称	周波数 (呼出・応答/通信)	運用時間	連絡先	備考
はかたポートラジオ	16/11, 12ch	常時	092-272-0577	東洋信号通信社受託局

**水先** 博多水先区水先人会に要請する。(第1編総記第6章水先参照)

**係船浮標** 長浜船だまり西部に1個の係船浮標がある。

**錨泊禁止** 西防波堤南部の内港入口から荒津大橋に至る海域は、福岡、長浜各船だまりに出入りする船舶の航路を確保するため、錨泊が禁止されている。

**錨地** 主に、第3区に錨泊するよう指導されている。北寄りの風の強いときは船舶の喫水に応じて志賀島や西戸《サイト》埼(33° 38.7' N 130° 21.7' E)の南西方に、西寄りの風の強いときは能古島の東側に錨泊するほうがよい。長浜船だまりは、どの方向の風に対しても比較的安全である。

検疫錨地は、能古島の東部に指定されている。

**架橋** 第1区南西部の博多漁港入口を横断する荒津大橋(高さ約38m)がある。

**気象** 夏季は一般に南東の風が多く、冬季には北西又は南西の風が多い。港内は年間を通じて比較的静穏であるが、港口が北東に開いているため、北寄りの風が強吹すると大波が港内に侵入し荷役不能（冬季に多く、年間4～5日という。）又は錨泊困難となる。

**海象** 冬季、北東～北西の季節風が吹くとき、大島～神集《カシワ》島周辺海域で、三角波が発生する。

5 **航泊制限** 引火性危険物積載タンカーの引火による事故を防止するため、一般船舶は港内に停泊中の同タンカー（タンク船含む）から30m（LPG船は50m）以内の海域に立ち入ることが禁止される。なお、同タンカーは、港内停泊中、夜間においても容易に視認しうる「引火性危険物積載中」の垂れ幕等を掲げている。

10 **錨地** 西港内は水深7～15m、底質細砂及び炭粉混じりの硬い泥で錨かきが良く、相賀《オウカ》埼によって多少北寄りの風を防ぐことができる。東港は水深7～9m、底質細砂で錨かきが良く、北西風時には西港よりも錨泊に適するが、台風時の避難錨地とはなり得ない。

検疫錨地は、大島北端の北西方0.7M付近に指定されている。

一般船舶の錨地は

西港錨地（概位 33° 28.8' N 129° 56.8' E）：唐津港西港東防波堤西灯台（33° 29.3' N 129° 57.4' E）から223° 1,300mの点を中心として半径100mの海面

15 **港湾施設**

名称	概位	長さ(m)	水深(約m)	係船能力(D/W×隻)	備考	
東海岸壁	33° 28.2' N 129° 57.9' E	230	9	10,000×1	長さには取付部を含む。	
東港フェリー岸壁	33° 28.2' N 129° 57.8' E	115	4.5	1,000×1		
LPG大型船専用棧橋	33° 28.9' N 129° 57.4' E	231.5	12.5	57,000×1		
LPG小型船専用棧橋	33° 28.7' N 129° 57.5' E	70	6	1,200×1		
大島1号ドルフィン岸壁	33° 28.6' N 129° 57.5' E	110	5	5,000×1		
<del>大島2号ドルフィン岸壁</del>		<del>110</del>	<del>5</del>	<del>3,000×1</del>		
大島岸壁	33° 28.5' N 129° 57.6' E	360	4～5.5	1,000×1		
水産ふ頭	5号岸壁	33° 28.4' N 129° 57.3' E	260	7.5	750×3	
	4号岸壁	33° 28.3' N 129° 57.3' E	110	5	750×1	
	3号岸壁	33° 28.2' N 129° 57.4' E	240	4	750×2	
	2号岸壁		90	3	450×1	
妙見ふ頭	妙見2号岸壁	33° 28.4' N 129° 57.1' E	200	2	2,000×2	
	妙見3号岸壁	33° 28.5' N 129° 57.1' E	270	6.5～7	5,000×2	
	妙見4号岸壁	33° 28.7' N 129° 57.0' E	240	11	30,000×1	
	妙見5号岸壁	33° 28.6' N 129° 56.9' E	130	7.5	5,000×1	
	妙見6号岸壁		90	5.5	2,000×1	

（注意）東海岸壁については、耐震岸壁として2016年4月から暫定運用されているが、前面泊地の水深が約7mであるため、当該泊地の浚渫を継続している。

**最大入港船舶** 2019年9月19日、客船 飛鳥Ⅱ（50,142t、喫水7.8m）が妙見ふ頭に着岸した。

20 **台風・津波等対策** 本港では、**台風・津波来襲等異常気象時における事故を未然に防止するため、唐津港台風等対策委員会が設置され、在港船舶等に対し、異常気象時における各船舶がとるべき措置を定めている。**（問合せ先：唐津海上保安部）

## 伊万里湾 (33° 23' N 129° 44' E) (海図W166)



(2019年9月撮影)

**概要** 佐賀、長崎の両県にまたがる大湾で、湾口から湾内にかけて大小多数の島があり、湾形を複雑にしている。湾は外湾と内湾とに分かれ、内湾の奥に伊万里港がある。

伊万里湾に入るには、青島水道、津崎水道及び日比水道の3水道があるが、日比水道は險礁があるので、大型船は通航できない。青島、津崎両水道はともに主水道として夜間も出入航できる。

**青島水道** (33° 25.7' N 129° 42.2' E) は、水深20m以上の幅約500mの水道で伊豆島東端から水道内に延びる浅礁、青島東北部から水道内に延びる群石堆などの險礁があるが、魚固《オゴノ》島の西側は比較的深く危険がない。魚固島(高さ57m)南側には、養殖施設がある。

**津崎水道** (33° 24.3' N 129° 40.4' E) は、水深20m以上の幅は約400mである。津崎水道最狭部の北側、青島南岸に養殖施設があるので十分注意する必要がある。

今福港内は、水深10~25m、底質はおおむね泥で錨かきは良く、2,000t前後の船舶が台風等の避泊地として利用している。

15 福島南端の白岩鼻北西方至近{伊万里港内}に九州液化瓦斯福島基地がある。通常、大型LPGタンカーは、青島水道を通航し、鷹島南端(33° 24.3' N 129° 44.0' E)礁の水深20m以下の暗岩群(この付近にタグボートが待機している)の西~南側海域を航行して同基地に入出港している。

## 目標

地物名	概位	備考
城《ジョウ》山	33° 23.2' N 129° 40.9' E	台形をした孤立山で山頂(高さ128m)にテレビ塔ほか(高さ151、150mほか)がある。
煙突	33° 21.4' N 129° 41.5' E	高さ204m、電源開発松浦火力発電所構内
煙突	33° 21.0' N 129° 40.9' E	高さ203m、九州電力松浦発電所構内
平山	33° 22.1' N 129° 47.1' E	平らな頂(高さ174m)で山頂に鉄塔がある。各水道、特に津崎水道から入るときの好目標である。
大飛島	33° 23.8' N 129° 46.8' E	高さ84m

青島水道から入港する場合の好目標で、標識灯は夜間の目標に利用できる。

## 第2節 対馬 (海図W173)

**概要** 長崎県に属し、南北の長さ約73km、最大幅約18kmの大きな島で上島及び下島の2島から成る。島岸は非常に激しく出入し、多数の湾入部には小港湾が多く小型船の避泊地が得られる。下島東岸の中部にある厳原港と上島東岸の北部にある比田勝港が代表的な港である。厳原港～芦辺港・郷ノ浦港〔老岐島〕～博多港との間にはカーフェリー及び高速旅客船が運航し、比田勝港と博多港との間にはカーフェリーが、韓国釜山との間には高速旅客船が運航している。また、下島東岸北部に対馬空港があり、長崎、福岡に至る定期航空便がある。

島の南、北両端付近は距岸約1.5Mまで岩礁が散在している。沿岸一帯には、養殖施設及び刺網、小型定置網等が多数存在し、また、北～西～南岸に至る間では飼付漁業が行われているので、各港湾への出入港及び沿岸航行をする場合には注意を要する。

**避泊地** 対馬沿岸では多数の避泊地が得られ、一般に東岸にあるものは東風、西岸にあるものは西風にさらされる。避泊地は次表のとおりである。

避泊地名	概位	避泊不適風向	錨泊できる最大船舶	備考
佐須奈港	上島西岸	北西	1,000 t	佐須奈港の頁参照
仁田湾		おおむね西	1,000 t	底質はおおむね泥、中央部に定置網及び南岸に養殖施設がある。
三根湾		西	1,000 t	丸島北東方水域は、水深40m前後でやや深いが底質おおむね泥。
綱浦		西	500 t	底質おおむね泥、西風の強吹中は波浪が侵入する。
浅茅《アソウ》湾	西岸中部		2,000 t	浅茅湾の頁参照
豆殿《ツツ》湾	下島南端	南東～南西	3,000 t	北西～北風時には各種船舶の好避泊地になるが、南風にはさらされる。風波の大きいときには停泊が危険。豆殿崎と東方対岸の小母《コモ》崎との一線の北側〔豆殿港〕は、水深20m未満で底質は砂であるが、所々に岩がある。
厳原港	下島東岸	東～南	1,800 t	厳原港の頁参照
阿須浦		東～南	5,000 t	浦内の5m等深線は距岸150m以内にあり、浦内の中央部は水深12.5～18m、底質砂で5,000 t以下の船舶の錨地が得られる。なお、気象に対する注意事項は厳原港とほぼ同様
三浦湾		湾口付近は東	各種	三浦湾の頁参照
大漁《オロシカ》湾	上島東岸	おおむね東	500 t	湾奥には水深20m前後、底質は泥で、南西～北西風を避ける500 t程度の小型船の錨地が得られる。
佐賀浦		東	800 t	多数の陰礁があり、錨地は狭められている。東風の強吹時には大波が侵入する。浦奥に佐賀漁港があり、浦内には約800 tの船舶が錨泊できる。
比田勝港		北東～南東	1,000 t	比田勝港の頁参照

避泊する際は、湾口又は湾内の漁網及び養殖施設に十分注意する必要がある。

**漁業** 対馬上島の北東から東方の約10～110Mの海域、対馬下島の南から西南西方の約8～35M以内の海域で、毎年5～11月の間シイラ漬け漁業が行われる。



### 佐須奈《サスナ》港 (34° 39' N 129° 23' E) (海図W173) (JP SSN)

**港種** 港則法適用港

**概要** 対馬上島北部の西岸にあり、西～北の風以外には安全な天然の良港であり、500 t 以下の船舶が入港して木材を積み出している。

- 5 立場埼(34° 39.0' N 129° 23.0' E)の西側～北側及び港口西角のトロク埼(34° 38.8' N 129° 22.4' E)には距岸約 200m以内に礁が散在している。立場埼の南方約 550mの水路中央に瀬(水深 4.6mの岩)がある。また、立場埼の南東方約 1,000mの水路中央にも瀬(水深 3.6m、北西～南東方向の長さ約 100m)がある。立場埼の南方約 400mにある瀬(干出する岩棚)に灯台があり、その南方約 200mにある防波堤端との間が入港水路になっている。

- 10 **目標** 港口東角の立場埼及び港口西角のトロク埼西側はがけになっていて顕著である。

#### 港湾施設

名称	概位	長さ(m)	水深(約m)	係船能力(D/W×隻)	備考
大地岸壁	34° 38.4' N 129° 23.3' E	210	4.5	-	

**錨地** 立場埼以西の港口付近の水深は約 14～30mで錨かきはあまり良くないが、1,000 t 級船舶の錨地となる。

**補給** 清水及び燃料油の補給ができる。

- 15 **台風・津波等対策** 本港では、台風・津波来襲時等、異常気象時における事故を未然に防止するため、**厳原港等異常気象対策委員会**が設置され、在港船舶等に対し、異常気象時における各船舶がとるべき措置を定めている。(問合せ先：**比田勝海上保安署 TEL 0920-86-2113**)

### 浅茅《アソウ》湾 (34° 20' N 129° 15' E) (海図W1211)

- 20 **概要** 対馬西岸の中央部にある大湾で、大口瀬戸と呼ばれる幅約 1.4Mの湾口は西方へ開き、湾内は東西約 8M、南北約 7Mで大口瀬戸、尾崎湾、竹敷錨地、濃部錨地及び仁位錨地の五つに大別される。

湾内には多数の小島が散在し、湾岸は非常に屈曲が多くて多数の浦を成し、樹木のうっそうと茂った山地が海岸に迫っており、極めて景色が良い。湾内の水深は 20～60mで錨地として深すぎる所が多い。また、岸近くには一面に養殖施設がある。この湾の東端は万関瀬戸(34° 17.8' N 129° 21.3' E)によって三浦湾に通じている。

- 25 **目標**

地物名	概位	備考
牛島	34° 21.4' N 129° 13.6' E	高さ 24mの岩小島
郷《ゴウ》埼	34° 19.9' N 129° 12.3' E	西岸は険しいがけを成し、埼上に灯台がある。
馬肥《マグワ》島	34° 19.4' N 129° 14.8' E	高さ 15mの小島、南側に赤色の岩棚があり、また、周囲 150m以内は水深が浅く干出岩や暗礁がある。
犬ヶ首埼	34° 18.7' N 129° 15.3' E	遠くから島のように見える。

### 豆 酸 港 (34° 07′ N 129° 11′ E) (海図W1213) (JP TST)

**港種** 港則法適用港

**概要** 対馬最南部の豆酸湾奥にあり、港奥に**豆酸漁港**がある。季節によっては他県の漁船の根拠地となる。この港は南方が大きく開いているので、南寄りの風の強吹時には錨泊に適さないが、北西～北の風を避けることができる。

#### 目標

地物名	概位	備考
神山	34° 05.4′ N 129° 13.0′ E	高さ230m、鋭頂の山
竜良《タテラ》山	34° 08.5′ N 129° 13.3′ E	付近の山の最高峰（高さ559m）
学校	34° 07.2′ N 129° 11.2′ E	校舎、入港目標

**避険線** ナカアボシ〔小松瀬〕(34° 05.1′ N 129° 09.1′ E、水深8.5m)は竜良《タテラ》山(34° 08.5′ N 129° 13.3′ E、高さ559m)とコーノコ(34° 05.8′ N 129° 10.0′ E、高さ6m)の一線(046° /226°)上で、神埼灯台(34° 05.1′ N 129° 12.8′ E)を092°に見る所にある。

**針路法** 上記の避険線を利用してナカアボシを避け、校舎へ向けて針路000°で進み、防波堤入口に接近する。西風の強吹時には、ナカアボシ(34° 05.1′ N 129° 09.1′ E、水深8.5m)には激潮が生じるので警戒を要する。

**錨地** 防波堤外の水深10m以上の所は、2,000～3,000t級の船舶の避泊地になる。

**港湾施設** 港内には、南、東両防波堤に囲まれた船だまり内に物揚場がある。

**補給** 清水、燃料油とも少量ならば補給ができる。

**台風・津波等対策** 本港では、台風・津波来襲時等、異常気象時における事故を未然に防止するため、**厳原港等異常気象対策委員会**が設置され、在港船舶等に対し、異常気象時における各船舶がとるべき措置を定めている。(問合せ先：対馬海上保安部 TEL 0920-52-0643)

### 厳 原 港 (34° 12′ N 129° 18′ E) (海図W168) (JP IZH)



(2019年8月撮影)

**港種** 特定港、開港、検疫港、出入国港、家畜検疫の港、植物防疫の港、重要港湾

**概要** 港内は南、北二つの入江に分かれ、主な港湾施設は北の入江にあり、南の入江は久田浦という。

港口が東方へ開き周囲の山が風を遮るので港内は比較的穏やかである。地勢が南北に深い谷になっているので、港内では吹きおろしの風が強吹することもあるが、船舶に危険を及ぼすことはまれである。しかし、東寄りの風の強吹時には注意が必要である。

**目標**

地物名	概位	備考
成相《ナリアイ》山	34° 12.8' N 129° 16.6' E	高さ416m、遠望顕著
診療所	34° 11.9' N 129° 17.7' E	白塗、顕著

**針路法** 厳原港南防波堤北東端 (34° 11.3' N 129° 17.9' E) と丸隈《マルクマ》山 (34° 11.6' N 129° 16.4' E、高さ272m) 頂との見通し線 (279°) 及び清水山 (34° 12.5' N 129° 17.0' E、高さ210m) を 330° に見る一線を折瀬 (34° 11.3' N 129° 17.8' E、水深5.5m以浅) に対する避険線としてこれを避け、丸隈山頂を 277° に見る線上を進み、南、北両防波堤間を通過後、徐々に右転して港内へ向かう。

**港湾施設**

名称		概位	長さ (m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考
厳原	1号岸壁	34° 11.9' N 129° 17.4' E	105	4~4.5	1,000t×1	
	2号岸壁	34° 11.8' N 129° 17.5' E	165	7	3,000t×1	
	3号岸壁	34° 11.7' N 129° 17.7' E	200	7~7.5	4,000×1	
	4号岸壁		130		5,000×1	
久田岸壁 (A)		34° 11.4' N 129° 17.4' E	180	4.5~5	1,000t×2	
久田岸壁 (B)		34° 11.4' N 129° 17.4' E	100	5~5.5	2,000t×1	

**最大入港船舶** 2011年5月11日、客船ぱしふいっくびいなす (26,594t、喫水6.5m) が厳原3、4号岸壁に着岸した。

**通信** 船舶と港長との間で無線電話による港務通信ができる。

呼出名称	周波数 (呼出・応答/通信)	運用時間	連絡先
もじほあん MOJI COAST GUARD RADIO	16/12ch	常時	対馬海上保安部

**錨地** 検疫錨地は、宇都須利崎の東側に指定されている。

**航泊制限** 引火による船舶の事故を防止するため、港内に停泊中の引火性危険物積載タンカーから30m以内の水面において、船舶の航泊が制限されている。

**気象** 年間を通じて北風が多く、次いで北西風が多い。

**注意** 台風がこの港の東側を通過するときは、高い波と強風が港内に侵入するため船舶は錨泊してられないので、上島～下島間の浅茅《アソウ》湾又は三浦湾に避泊する。南東の風が20m/sに達すると、港口の出入りが極めて危険になるので、気象情報に十分注意して、時機を失することのないように注意を要する。

**台風・津波等対策** 本港では、台風・津波来襲時等、異常気象時における事故を未然に防止するため、**厳**

原港等異常気象対策委員会が設置され、在港船舶等に対し、異常気象時における各船舶がとるべき措置を定めている。(問合せ先：対馬海上保安部)

#### 海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
対馬海上保安部（港長）	0920-52-0643	福岡出入国在留管理局対馬出張所 (厳原庁舎)	0920-52-0432
門司税関厳原税関支署	0920-52-1112		
長崎県対馬振興局	0920-52-1311	福岡検疫所厳原・比田勝出張所	0920-52-0089

補給 清水及び燃料油の補給ができる。

5 修理 500t 程度の船舶を上架できる造船所がある。

海上交通 壱岐島に寄港して博多港に至るカーフェリー便 (1,809 t)、高速旅客船便(163 t)及び韓国からのフェリー便及び高速旅客船便がある。

#### 10 三浦湾 (34° 19' N 129° 23' E) (海図W1211)

概要 湾口付近は大型船の避泊地になるが、東～南東風にさらされる。

湾北部の奥に鴨居瀬漁港があり、湾西部には浅茅湾に通ずる万関瀬戸のほか多数の小浦があつて、それらの小浦及び海岸沿い一帯に養殖施設がある。

#### 目標

地物名	概位	備考
折瀬鼻	34° 18.0' N 129° 23.5' E	顕著ながけの埼、鼻上に灯台がある。
黒島	34° 18.9' N 129° 23.9' E	3つの頂がある樹木の茂った険しい島で、南岸の東部及び中部は低い岩のがけ海岸を成し岸に沿って礁が続いている。東端の島頂に灯台(高さ144m)がある。中央部の島頂は、高さ94mである。
国《クン》埼	34° 18.8' N 129° 22.8' E	険しいがけの埼
甑《コシキ》埼	34° 18.2' N 129° 22.2' E	緒方浦の浦口西角

比田勝港 (34° 39' N 129° 29' E) (海図W175) (JP HTK)



(2019年9月撮影)

**港種** 港則法適用港、検疫港、**出入国港**、家畜検疫の港、植物防疫の港

5 **概要** 対馬北部の東側にある**西泊湾**全体を港域とする港である。この港は港口が南東方に開口しており、東寄りの風以外をよく防ぐ天然の良港で、漁期には多数の漁船が群集する。港奥の大半は水深10~20mと深く4,000t級の船舶の入港も可能である。

**目標**

地物名	概位	備考
権現山	34° 39.6' N 129° 28.6' E	高さ186m
西泊湾導灯	34° 39.4' N 129° 28.1' E	2灯一線299.1°

10 **針路法** 西泊湾導灯の見通し線上を進航すればよいが、やや大型の船舶は、雷埼 (34° 39.2' N 129° 28.8' E) 付近では指導線の少し南側を航行し、雷埼通過後はやや北側を航行するほうが良い。

なお、定期船は、導灯の見通し線が尉殿《ジョウドノ》埼 (34° 38.7' N 129° 29.5' E) に接近しているため、尉殿埼を約400m離して航行し、小島東端とその南方の牛ノ首鼻 (34° 38.8' N 129° 29.1' E) との一線付近から導灯の見通し線上を進んで入港している。

15 **錨地** この港は東寄りの風が強くなると波浪が侵入し、特に台風が対馬の西方を通過する際は危険である。

検疫錨地は雷埼の北西方400m付近に指定されている。

**港湾施設**

名称	概位	長さ (m)	水深 (約m)	係船能力 (t×隻)	備考
比田勝岸壁(A)	34° 39.3' N 129° 28.2' E	70	4~4.5	700×1	
比田勝岸壁(B)		146	5	1,500×1	
西泊岸壁(A)	34° 39.4' N 129° 28.3' E	180	3.5~4.5	2,000×2	
網代岸壁	34° 39.2' N 129° 28.5' E	180	7.5	4,000×1	フェリー使用

このほか、港内北岸及び南岸の各船だまり内に物揚場がある。

20 **台風・津波等対策** 本港では、台風・津波来襲時等、異常気象時における事故を未然に防止するため、厳原港等異常気象対策委員会が設置され、在港船舶等に対し、異常気象時における各船舶がとるべき措置を定



めている。(問合せ先：比田勝海上保安署)

### 海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
比田勝海上保安署	0920-86-2113	福岡検疫所厳原・比田勝出張所	0920-52-0089
福岡出入国在留管理局対馬出張所 (比田勝港事務室)	0920-86-4000	門司税関厳原税関支署比田勝出張所	0920-86-2269

補給 清水及び燃料油の補給ができる。

海上交通 博多港との間にカーフェリー便 (1,125t) 及び韓国釜山との間に高速旅客船便 (553t 及び 457t) がある。

## 第3節 壱岐水道西口～野母埼 (海図W187)

### 二神《フタガミ》島～佐世保港口 (平戸島西側経由) (海図W198、W1249)

概要 壱岐水道の西口にある二神島及び小二神島から南方には、的山大島、度《タク》島、生月《イキツキ》島などを挟んで平戸島がある。この海域は九州北岸～西岸を航行する船舶の通航が多い。

### 目標

地物名	概位	備考
二神島	33° 36.3' N 129° 33.2' E	高さ91m、南部に灯台がある。岸は険しいがけを成す。
小二神島	33° 36.9' N 129° 31.1' E	小島(高さ57m)で、周囲は急深である。
的山《アズチ》大島	33° 29.3' N 129° 32.7' E	北東部にある後ノ浦以外の島岸はすべて険しいがけで、島頂(高さ216m)は南方から玄界灘に向かうときの好目標。島の東及び西側の峰付近に、風力タービンが複数設置されている。

注意 的山大島の長崎鼻(33° 30.6' N 129° 33.3' E)から北方に延びる礁脈がある。少し波があると白波が立つので、その外端を識別することができる。

大島瀬戸(33° 27.7' N 129° 31.2' E)は、的山大島～度島間の水道で、最狭部は約1M、水深は30～70mあり、大型船も通航できる。

針路法 大島瀬戸を西航しようとする船舶は、度島北端の荒埼(33° 27.3' N 129° 31.8' E)を生月島北端付近の大礫鼻《オオバエハナ》灯台(33° 26.4' N 129° 25.8' E)と一線(260°)に見て進み、蛸ノ曾根(33° 27.9' N 129° 34.1' E、水深4m)の南方約500mの地点を通過してから、適宜の針路に変針して中曾根(33° 28.0' N 129° 32.3' E、水深8.3m)に注意しながら瀬戸を通過すればよい。

潮流 大島瀬戸では、上げ(下げ)潮流は西(東)方へ流れ、最強流速は上げ2.8kn、下げ3.3knである。

白岳瀬戸(33° 25.0' N 129° 32.3' E)は、度島～平戸島間にある水道で、小幅0.7M、東口はやや浅くて、水深16～20mの北西～南東方向に延びる堆がある。

針路法 白岳瀬戸を西航する船舶は、平戸島のハナグリ鼻(33° 24.4' N 129° 31.5' E)と中江ノ島北西端の千鳥鼻(岩頂)(33° 22.5' N 129° 27.8' E)とを一線(237°)に見て進み、肥前横島灯台(33° 25.3' N 129° 32.1' E)正横後、適宜の針路に変針して瀬戸の中央を通航すればよい。

潮流 白岳瀬戸では上げ(下げ)潮流は西南西(東北東)方へ流れ、最強流速は上げ2.9kn、下げ2.5knである。

**台風・津波等対策** 本港では、台風・津波襲来時等、異常気象時における事故を未然に防止するため、佐世保港台風等対策委員会が設置され、在港船舶等に対し、異常気象時における各船舶がとるべき措置を定めている。また、異常気象時においては、港長から、異常気象時における各船舶がとるべき措置について、港則法に基づく勧告等がなされることがあることから、留意すること（問合せ先：佐世保海上保安部）

- 5 **航泊禁止** 平成30年1月31日から当分の間、高後埼灯台から東方3,700m(概位 33° 06' 07" N 129° 42' 22" E) の沈船(約 12,000 t、黄塗球体浮標にて表示)を中心とする半径 250mの円内海域は、喫水が 10m以上の船舶の航行及び全ての船舶の錨泊が禁止されている。(平成30年1月31日 港長公示第2号)

**港湾施設**

名称	概位	長さ (m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考	
鯨瀬フェリー栈橋	33° 09.7' N 129° 43.4' E	115	5.5	2,000×1	フェリー使用	
新みなと	33° 09.8' N 129° 43.5' E	-7.5m岸壁	220	7.5	15,000×1	
		-4.5m岸壁	100	4.5	2,000×1	
三浦-10m岸壁	33° 09.6' N 129° 43.5' E	270	10	12,000×1		
千 尺	33° 09.3' N 129° 43.4' E	-4.5m岸壁	60	4.5	500×1	
		-7.5m岸壁	130	7.5	5,000×1	
		-5.5m岸壁	180	5.5	2,000×1	
前 畑	33° 09.0' N 129° 43.3' E	-4.5m岸壁	120	4.5	7,000×1	
		-10m岸壁	185	7.5~10	15,000×1	
		-11m岸壁	195	9.5~10	20,000×1	水平引込クレーン式アンローダー
		-13m岸壁	260	11.5~13	40,000×1	
浦頭岸壁 1、2号	33° 08.8' N 129° 43.4' E	130	7.5	5,000×1		
浦頭岸壁 1、2号	33° 06.1' N 129° 44.9' E	260	6~7	5,000×2		

上記のほか、港内各所に米軍及び自衛隊の専用係船施設がある。

- 10 **最大入港船舶** 2023年11月10日、客船 MSC ベリッシマ (171,598 t、喫水 8.7m) が三浦-10m岸壁に着岸した。

**航泊制限** 引火による船舶の事故を防止するため、一般船舶は、港内に停泊中の同タンカー(タンク船を含む) 30m以内の水面に立ち入ることが禁止されている。なお、同タンカーは、港内停泊中、夜間でも容易に視認しうる「引火性危険物積載中」の垂れ幕等を掲げている。

- 15 **錨地** 第3区東部の恵美須湾は、水深 10m前後、底質泥及び貝殻で好錨地になる。  
 検疫錨地(33° 05.8' N 129° 42.0' E)は、航路の南側に指定されている。  
 危険物積載船の錨地は、第3区の百間《ヒヤッケン》鼻(33° 07.6' N 129° 44.1' E)と土井ノ鼻(33° 05.5' N 129° 42.0' E)を結ぶ線以東に指定されている。  
 なお、佐世保港内で錨地を希望する全ての船舶は、佐世保海上保安部に連絡すること。

**通信** 船舶と港長との間で無線電話による港務通信ができる。

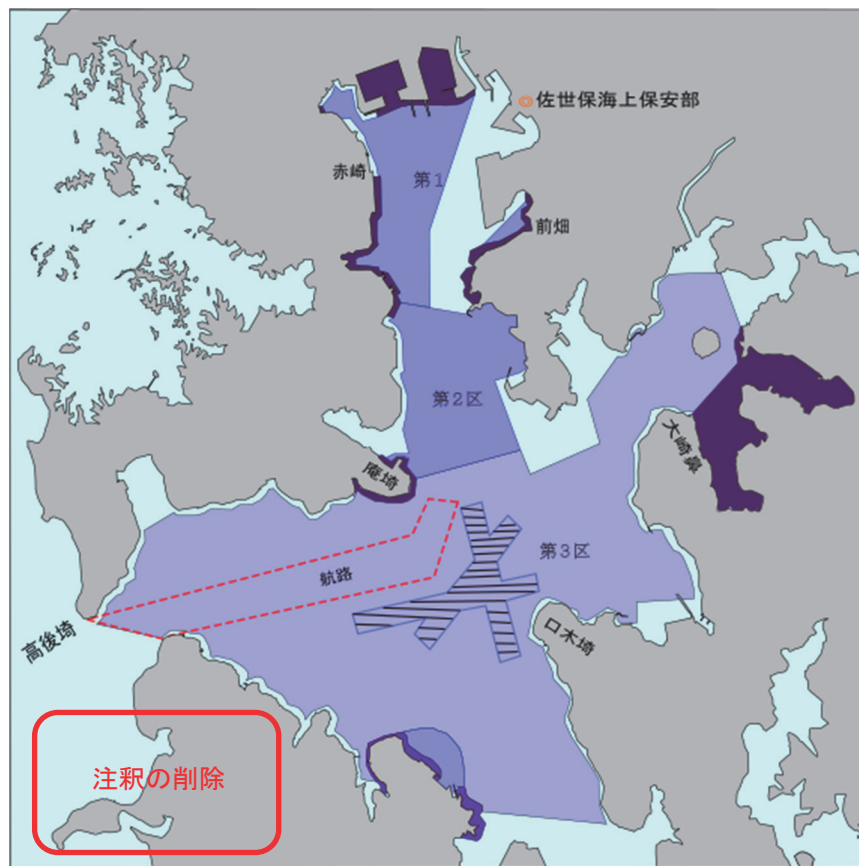
呼出名称	周波数 (呼出応答/通信)	運用時間	連絡先
もじほあん MOJI COAST GUARD RADIO	16/12ch	常時	佐世保海上保安部


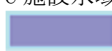
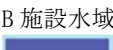
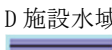
**係船浮標** 港内には多数の係船浮標があるが、米軍及び自衛隊の専用である。

**海底磁気測定器設置区域** 第2区大森鼻の西北西方約0.6Mに海底磁気測定器設置区域（西側至近に灯付白塗浮標がある）がある。

5 **立入禁止等** 米軍施設制限水域が設けられている。制限水域は4種類に区分され、それぞれに禁止事項が定められている（第16図参照）。

**第16図 佐世保港米軍施設制限水域図**



施設 水域名	禁止事項 (許可取得を要す)	施設 水域名	禁止事項 (許可取得を要す)
A 施設水域 	立入り	C 施設水域 	1. 潜水、サルベージのための立入り 2. 合衆国軍管理船舶及び水上機から100メートル以内の立入り
B 施設水域 	1. 漁ろうのための立入り 2. 潜水、サルベージのための立入り 3. 停留のための立入り 4. 合衆国軍管理船舶及び水上機から100メートル以内の立入り	D 施設水域 	1. 潜水、サルベージのための立入り 2. 投錨のための立入り 3. 昼間漁ろうのための立入り 4. 水域が水上機により使用されているときの立入り



かされている。港奥の浦上川河口付近に**長崎漁港**、北西部の福田浦に**福田漁港**、南部の野牛島南側に**深堀《フカホリ》漁港**があり、主として離島航路の定期船、観光船、漁船及び造船所での造修船などが出入港している。

### 目標

地物名	概位	備考
門型クレーン	32° 42.2' N 129° 49.3' E	高さ地上 99m、赤白塗、三菱重工業香焼工場構内
高 鉾 島	32° 42.9' N 129° 49.9' E	高さ 72m、沖合から三角形の形に見える。
稲 佐 山	32° 45.2' N 129° 51.0' E	高さ 342m、頂の北方至近に 3 無線塔及び展望台がある。

- 5 **航路** 航路は港口から港奥に向かい、長さ約 3M、幅 280 ～480m、水深は 18.5～45mあるが、一部に水深 13m前後の浅所がある。

### 入港上の注意

- 1 長崎港に近づく航路は安全であるが、初入港時は、遠方から港口を発見しにくいことがある。
- 2 港内が狭いうえ、多数の渡船が往来しているので注意を要する。
- 3 第2区、第3区の沿岸には多数の油タンクがあるので港内火災についても十分の注意が必要である。

**水先** 長崎水先区水先人会に要請する。(第1編総記第6章水先参照)

- 15 **海象** この地方の方言で「アビキ」と呼ばれる極めて顕著な海面の昇降(副振動)があり、港奥の大波止付近で昇降差が 1mに達することもまれでなく、1979年(昭和54年)3月31日に最大全振幅 278cm、周期約 35分が観測されている。アビキの発生は冬から春にかけて多く、盛夏にはまれである。これは主として気象現象による海面のじょう乱であるとされているが、今のところその状態を予報することはできない。

### 港則

縫航の制限 (港則法施行規則 第45条)	帆船は、長崎港第1区及び第2区を縫航してはならない。
-------------------------	----------------------------

### 進路表示信号

進路表示信号	信号	目的地に関する記号	信文
(平成7年海上保安庁告示第35号)及び船舶自動識別装置の目的地に関する記号(平成22年海上保安庁告示第94号)	2代・F	F	長崎漁港の係留施設に向かって航行する。
	2代・1・E	1 E	第1区東側の係留施設に向かって航行する。
	2代・1・W	1 W	第1区西側の係留施設に向かって航行する。
	2代・1・B	1 B	第1区の係船浮標に向かって航行する。
	2代・2・E	2 E	第2区東側の係留施設に向かって航行する。
	2代・2・W	2 W	第2区西側の係留施設に向かって航行する。
	2代・3・N	3 N	第3区北側又は第5区の係留施設に向かって航行する。
	2代・3・E	3 E	第3区東側、第4区小ヶ倉柳ふ頭又は土井首浦の係留施設に向かって航行する。
	2代・4・E	4 E	第4区九州スチールセンターからナカタマックコーポレーションに至る間の係留施設に向かって航行する。
2代・4・W	4 W	第4区三菱重工造船所若しくは大島造船所の係留施設又は公共岸壁に向かって航行する。	

- 1 ベイパイロット乗船場所 戸島灯台より 184° 2.2 海里 (32° 09.7' N 130° 04.7' E)
- 2 ベイパイロットサービス時間 24 時間
- 3 八代港ハーバーパイロット乗船場所 (日出～日没)  
 錨泊船 航路 No. 1 ブイ 0.5 海里西 (32° 27.0' N 130° 29.0' E)
- 5 直航入港船 航路 No. 1, 2 ブイ 1 海里南 (32° 25.9' N 130° 29.2' E)

### 港湾施設

名称	概位	長さ (m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考	
外港	G0 岸壁	32° 31.6' N 130° 32.2' E	410	10.5	220,000×1	クルーズ船専用
	G1～G4 岸壁	32° 31.9' N 130° 32.4' E	650	10～11.5	15,000×4	
	G5 岸壁	32° 32.2' N 130° 32.6' E	280	12.5～14	50,000×1	2 アンローダー、 2 クレーン併設
	G6 岸壁		200	12	30,000×1	コンテナクレーン
	G11・G12 岸壁	32° 31.5' N 130° 32.3' E	260	5～8.5	5,000×2	
	G13 岸壁		165	8.5	10,000×1	
内港	N1～N8 岸壁	32° 30.5' N 130° 33.8' E	720	3～4.5	2,000×8	
	N9・N10 岸壁	32° 30.7' N 130° 33.3' E	260	5～5.5	5,000×2	
	-4.5m岸壁	32° 30.7' N 130° 34.0' E	60	0.5～2.5	500 t ×1	

この他、会社専用の係船施設がある。

**注意** 大築島以北の海域各所に多数の漁さくがあり、レーダによく映るものの高潮のときは没するものもあるので注意を要する。

- 10 **最大入港船舶** 2023年9月26日、客船 MSC ベリッシマ (171,598 t、喫水 8.7m) がくまモンポート八代 (G0 岸壁) に着岸した。

### 海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
八代海上保安署 (港長)	0965-37-1477	福岡検疫所 水保・八代出張所	鹿児島検疫所支所へ連絡 099-222-1473
長崎税関八代税関支署	0965-37-1603	熊本県 八代港管理事務所	0965-37-0338
門司植物防疫所 鹿児島支所八代出張所	0965-37-1544	福岡出入国在留管理局 熊本出張所	096-362-1721

- 15 **台風・津波対策** 本港では、台風・津波等による船舶事故を未然に防止するため、八代港船舶津波、台風等対策協議会を設置し、在港船舶などに対し、台風・津波情報の伝達及び警戒、避難の勧告・解除等の台風・津波災害防止措置を指導している。(問合せ先：八代海上保安署)

### 医療施設

名称	電話番号	備考
労働者健康安全機構熊本労災病院	0965-33-4151	

**引船** 引船がある。

**修理** 修理できる造船所がある。

**補給** 清水及び燃料油の補給ができる。

**航行上の注意** 西方へ圧流される傾向にあり、西側の防波堤に接触した船舶もあるので、十分な注意が必要である。

**錨地** 深喫水船の錨地は、港口の南方で飯埼～大島北端間の水深12～16mの所がよい。同錨地は、東寄りの風るとき波浪が侵入するので注意を要する。

## 5 港湾施設

名称	概位	長さ (m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考
第1号岸壁 <del>(-5.0m)</del>	31° 34.4' N 131° 24.4' E	70	工事中	1,000×1	
第2号岸壁 <del>(-7.5m)</del>		130	6.5～7.5	5,000×1	
第3号岸壁 <del>(-5.0m)</del>		70	2	1,000×1	
第4号岸壁 <del>(-5.0m)</del>	31° 34.6' N 131° 24.5' E	78	5	1,000×1	
第5号岸壁 <del>(-5.5m)</del>		194	5	2,000×1	
第6号岸壁 <del>(-7.5m)</del>		150	7	5,000×1	
第7号岸壁 <del>(-7.5m)</del>		152	7	5,000×1	
第8号岸壁 <del>(-6.5m)</del>		102	5～5.5	3,000×1	
第9号岸壁 <del>(-10m)</del>	31° 34.2' N 131° 24.4' E	185	10.5	12,000×1	
第10号岸壁 <del>(-12m)</del>		240	12	30,000×1	
漁港地区第1岸壁 <del>(-5.0m)</del>	31° 34.7' N 131° 24.0' E	450	3～4.5	1,000×1	

**最大入港船舶** 2023年6月6日、客船MSCベリッシマ(171,598t、喫水8.7m)が、第10号岸壁に着岸した。

**台風・津波対策** この港では、台風、津波等による船舶事故を未然に防止するため油津港台風・津波対策委員会を設置し、在港船舶などに対し、台風・津波情報の伝達及び警戒、避難の勧告・解除等の台風・津波災害防止措置を指導している(問合せ先:宮崎海上保安部)。

**補給** 清水及び燃料油の補給ができる。

### 海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
宮崎海上保安部	0987-22-3264	宮崎県油津港湾事務所	0987-23-3125
門司税関 細島税関支署油津出張所	0987-22-2879		

### 医療施設

名称	電話番号	備考
宮崎県立日南病院	0987-23-3111	

中城湾 (26° 15' N 127° 53' E) (海図W228<sup>B</sup>、W239、W241)  
新港地区



(2019年9月撮影)

5 **概要** 金武中城港の南半分を占める広く大きな開湾で、港奥ほどしだいに浅くなっている。湾浜の前面及び小島の周囲には干出さんご礁、洗岩や暗礁などがあり、錨泊の妨げになっている。

湾内の北部に**新港地区**が、南西部に与那原《ヨナバル》湾があり、勝連《カツレン》埼の北西側に米軍専用のホワイトビーチ軍港（通称）が、久高《クダカ》島 (26° 10' N 127° 54' E) 南西端には徳仁《トクジン》港がそれぞれある。

10 この湾の入口は、南から久高口 (26° 09.0' N 127° 53.0' E)、二ツ口《ターチイクチ》(26° 13.0' N 127° 57.0' E)、津堅口《ツケンクチ》(26° 16.5' N 127° 59.0' E) 及び浜比嘉口《ハマヒガクチ》(26° 20.5' N 128° 00.5' E) があり、その主な入口は二ツ口（幅約2M、水深約55m）である。

二ツ口は中城湾の主な出入口で、入口水路の中央に中城湾口灯浮標 (26° 13.3' N 127° 58.0' E、レーダ反射器付) がある。

15 **目標**

地物名	概位	備考
煙突	26° 11.4' N 127° 45.9' E	高さ121m、薄青塗
<del>煙突</del>	<del>26° 13.7' N 127° 47.1' E</del>	<del>高さ72m、赤塗</del>
製糖工場	26° 20.7' N 127° 51.9' E	白色の建物及び煙突（高さ52m）がある。
ウガン岩	26° 10.9' N 127° 55.7' E	高さ5mの岩、二ツ口通航時の目標となる。

港湾施設（新港地区）

名称		概位	長さ (m)	水深 (約m)	係船能力 (D/W×隻)	備考
西ふ頭	-5.5m岸壁	26° 19.5' N 127° 50.9' E	270	<del>5</del> 5.5	2,000×3	
	-7.5m岸壁		260	5~7	5,000×2	
	-10m岸壁		185	9~10	15,000×1	
	-13m岸壁		260	12.5~ <del>13</del>	40,000×1	
東ふ頭	-7.5m岸壁	26° 19.8' N 127° 51.4' E	780	7~7.5	5,000×6	

**水路** 中城湾北部の防波堤（西）から新港地区に至る掘下げ水路は幅約230m、水深13mで3灯浮標及び防波堤灯台で標示されている。